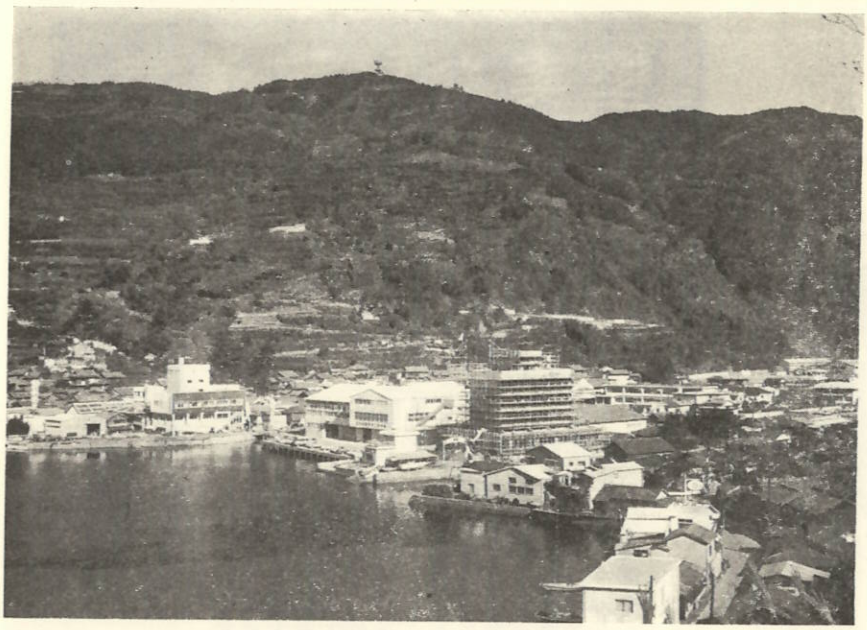
広報伊方町

発行所 愛媛県西宇和郡 伊方町
編集 伊方町町民室
印刷所 尾上印刷所 (八幡浜市天神通 電話②0091番)



賀正 発展をめざす 伊方町の夜明け！

万物の生長の根源である太陽が東の空に静かに昇った。野山の草木は安らぎからさめ、清風が頬をなでる。心気一転、新しい年、昭和四十五年のはじまり。発展する伊方町の夜明けです。

ことしも、さかえ行く明るい、住みよい伊方町の実現をめざして槌音高く諸事業の遂行がなされます。

躍進する伊方町の青写真が、点が線に、いざ前進、前進！

こんどこそ逃すまい 国民年金に加入する 最後の機会！

こんど、国民年金法の改正により高令者のための五年年金が設けられることになりました。

改正の大きなねらいの一つは、おとしよりのしあわせを願い、その生活を守るため、老令福祉年金しかもらえない人に、きょ出制の年金に加入する道をひらき、より多くの年金がもらえるようにと配慮されたことです。

五年年金

◇加入できる人
（つぎのいづれにも該当する人）
○今まで国民年金に加入したことがない人。
○明治三十九年四月二日から明治四十四年四月一日までの間に生れた人。
○厚生年金など、いづれの公的年金制度にも加入していない人。
○厚生年金などいづれの公的年金制度からも年金を受けることができない人。

◇加入期間
五年間

◇保険料額
月額 七五〇円（五年間の掛金総額は四五、〇〇〇円）

◇年金額
年額 三〇、〇〇〇円（月額 一、五〇〇円）

◇支給開始の時期
六十五才から（六十五才になるまでに五年を満たない人は五年を満たしたときから）

◇加入申出期間
昭和四十五年一月一日から六月三十日まで

この五年年金に加入したAと加入しなかった人が受けられる年金の額を比較してみましょう。

区分		加入した人	加入しなかった人
年金の支給開始年令		65才	70才
支給開始年令からの平均余命（昭和42年の簡易生命表による）	男	12年	9年
	女	15年	11年
平均余命で計算した受けられる年金の総額	男	360,000円	194,400円
	女	450,000円	237,600円

この表の「受けられる年金の額」をみてもわかりますように、掛金総額は四五、〇〇〇円）」を掛け金をしてでも加入した方がはるかに有利だといえましょう。

なお、加入しなかった人が受ける福祉年金には、本人の所得や、配偶者、扶養義務者の所得などによって制限され年金を受けられない場合がありますから加入しておく必要があります。

また、物価の値上がりや生活水準の向上などによって、将来年金額の引上げがおこなわれる場合でもきょ出年金の方が大巾な引上げが期待できます。

加入を希望される方は、できるだけ早めに役場保険課年金係まで申し出をしてください。

平和で健康な町づくりを

伊方町長 山本長松

輝やかしい昭和四十五年の新春を迎え、みなさまに心からおよろこび申し上げます。

町内のみなさんも、遠く町外でご活躍の方々も、新しい年を希望と抱負で楽しくお迎えのことと存じます。

一九七〇年の輝やかしい新生の年が始まりました。

「一年の計は元旦にあり」とか伊方町百年の将来を展望し町政発展のために確固たる財政計画を樹立し、長期的な見通しのうえに立って、効率的な諸事業を行ない平和で、健康な、町の建設に新たな決意をもって邁進いたす覚悟であります。

ことしは、多年の懸案でありました役場庁舎の新築を見るにいたりましたことは、議会関係各位の献身的な努力と、町民各位の深いご理解と強力なご支援の賜と存じ、深甚の敬意と感謝の意を捧げるものであります。

私は、これを契機といたし明るく能率的にそして、町民のみなさんから親まれる庁舎といたしたくみなさまのご協力を心からお願い申し上げます。

今後町民各位のより一層のご支援ご協力をお願い申し上げ、所感の一端を述べ年頭のごあいさつとご理解と強力なご支援の賜と存じいたします。

"70"世界農林業センサス

2月1日を期して調査

農家のみなさん！

一九七〇年世界農林業センサスを、ご存知でしょうか。

実は、昭和四十五年二月一日を中心に全国いっせいに行なわれる農林業に関する調査のことです。

つまり、農家のみなさんのご協力を得て、農林業の事情を知るために行なわれる調査のことをいうのです。

そこで一九七〇年世界農林業センサスを行なうことが、どんな意義があるか、ここでいっしょに考えてみたいと思います。

ご承知のように、今や、わが国の農業は、お米をはじめ、むづかしい問題をたくさんかかえています。

農林省、県、町や農業団体は、こうした問題解決のために一生懸命努力しています。

また、林業についても同じことがいえます。

しかし、いろいろな政策をすすめる上で、第一に必要なものは正確な統計に基礎をおいて計画を立てることにあるのです。

そこで、二月一日を期して、こうした統計を作るために農林業センサスが行なわれるわけです。

その際、調査員がみなさんのお宅を訪ねて、いろいろ質問することになりますが、みなさんにおたずねしたことについては絶対に秘密が守られます。ですから、この調査によって税金がふえるのではないかという心配をされる必要はありません。

もし、統計をつくる以外に調査票を使ったりした場合には、法律によって処罰されることになっているからです。

農家のみなさんが、税金などのことを心配して正しい申告をしていただきませんと、間違った統計がつくられ、誤った計画がたてられてしまいます。

したがって、このセンサスによって正確な統計を作るには、農家のみなさんに正しい申告をしていただくことが何よりも大切です。

一九七〇年世界農業センサスの結果は、これからあたらしい日本の農林業の進むべき方向を示す重要な決め手になるものです。

農家のみなさん！農林業センサスを成功させるために、正しい数字を報告してください。

新しい年を迎えて

伊方町議会議長 菊池武雄

希望に輝く、昭和四十五年の新春を迎え、謹んでお慶びを申し上げます。

心あたたまる新春をあをぎ、みなさまのご健康を心からおよろこび申し上げるとともに平素の町議会へのご協力に対し衷心より感謝申し上げます。

本年は多年の懸案でありました新庁舎の完成とともに新らしい伊方町の開発を指向する年となることと心深く期しておるものであります。

しかしながら住民の福祉に直接つながる産業構造の改善、地域開発、健康管理をはじめ幾多の問題をかかえ、私たちをとりまく現下の生活環境はきびしいものがあります。

私たちは町理事者をはじめみなさまとともにこれらの諸問題の解決に更に一層の努力を続けてまいりたいと存じます。

何卒、旧倍のご指導と、ご鞭撻をお願い申し上げますとともにみなさまのご多幸を祈念し年頭のごあいさつといたします。

議会議員（議席順）

竹場 兼男　佐々木 勝
中元 清吉　高田 健一
兵頭宇三郎　大林 雅男
樫尾 寛　黒田 市栄
明神 紀男　米沢 彦志
二宮 頼志　中川鏡太郎
菊池 彦光　菊池 武雄
渡辺 菊義　茅田 一
高野 遠
議会事務局長 岩井 正

（敬称略）

昭和四十五年の新春をむかえ

つつしんでみなさまのご健勝をおよろこび申し上げます

伊方町役場

町長 山本長松
助役 大本亀夫
収入役 城岡武夫
総務課長 武田庄松
税務課長 岡崎春長
民生課長 木戸五雄
保険課長 岩見正志
建設課長 兵頭熊一
産業課長 二宮一一
水道課長 河野吉一
町民室長 脇田道
支所長 清水義久
農委会事務局長 井上鶴敏
職員一同

伊方町教育委員会

委員長 栗田龍彦
教育長 井桜政勇
次長 林鍛
給食センター所長 佐々木雄久
委員、職員一同

区長

大浜 米田 幸悦
中之浜 木下 幸一郎
仁田之浜 樋田 剛
河内 二宮 徳志
湊浦 山下 朝則
渕二 笹野 進
小中浦 井上 伊勢雄
伊方 越辻 利安
亀浦 安部 菅一郎
中浦 小笠原 一夫
川永田 小池 鶴安
豊之浦 井上 忠孝
小泉 渡辺 久一
奥 堀内 久一
向 畑田 好太郎
須賀 喜夫
久 西 保 中村 健一
二見 高木 末広
加周 岩井 順久
田之浦 池上 平治
古田 若之助
古屋 敷本 頼文
大成 小島 寅勇
鳥記
津竹

（敬称略）

堅実な財政運営

3年連続黒字決算

昭和43年度 町の台所報告

実質黒字額三五三万円

昭和四十三年度町の台所、一般会計の決算ができました。

そこで町の台所状況はどうなっているか簡単にのぞいてみましょう。

この台所状況をみますと、昭和四十三年度の決算規模は、一般会計三億四千万円と特別会計（国保水道、町誌出版会計）を含めますと昨年に引き続き四億円の大台を越えることになりました。

ここで特筆すべきことは、全会計の合計において、本町発足後、はじめての黒字決算になったことであります。

このなかで一般会計においては過去三カ年連続して黒字決算をみることができ、四十四年度の庁舎改築に備え、堅実な財政運営を続けています。

また、国保会計は昭和三十九年度のつまずきを除けば、順調な財政運営をみせており、連年赤字をつづけてきました水道会計も昭和四十二年度から自主再建が軌道にのり、昭和四十三年度には一六六万円もの不良債務を解消しています。

町誌出版特別会計は、四十三年度に町誌刊行は実現したものの、完全納本が年度末に至ったため、その販売計画の実行がおくれ、出版総経費一九七万円に対し年度内消化八三万円と、一一四万円もの赤字決算となりましたが、四十四年度には、その完全消化をめざしています。

一般会計決算の内容

一般会計について町の台所でとのようにお金が入り、使われたかグラフ、カットをみながらその概況をみてみましょう。

町の台所へ入ったお金は総額三億四、二〇〇万円、使ったお金は三億三、八二六万円で差引き額、三七四万円の黒字となっていますが、このうち年度内に事業が終らず翌年度に繰り越したお金が二一万円ありますから実質黒字は三五三万円となります。

この黒字額は、昭和四十二年度実質黒字額一九五万円に対し、差し引き一五八万円の増額となりました。

このことは町政について町民のみなさんの深いご理解とご協力の賜ものです。

◇入ったお金（歳入）

入ったお金で最も多いのは、四〇・九%を占める地方交付税、ついで国、県支出金二三・五%、町債一七・二%、分担金七・三%の順になっております。

国、県への依存財源である地方交付税、国県支出金、地方債を合算しますと八一・六%となり、昭和四十二年度の依存率七一・六%、四十一年度の依存率七六・〇%の三七四万円の黒字となっています。

自主財源の主軸である町民税が四十年度九・五%、四十一年度七・四%、四十二年度六・三%にくらべ四十三年度は七・二%と低下一途の傾向はとどまったとはいえ十%をはるかに下廻っていることと考え合せ、全く一割自治の実体であります。

そのなかで財政力の弱さを克服し、各般の財源を求め、積極的に建設事業を推進したあらわれです。

◇使ったお金（歳出）

使ったお金では教育費の二三・一一世帯当り　一三八、一七八円
一人当り　三五、一〇〇円

三%をトップに以下総務費および農林水産業費の一五・四%、土木費一三・〇%、公債費一〇・一%、民生費八・九%、災害復旧費四・九%、労働費三・四%、衛生費二・八%、議会費一・七%、消防費〇・九%、商工費〇・二%の順になっています。

今年度（四十三年度）は、二見小学校校舎や九町小学校屋内体育館建設、中央公民館建設の関係で前年度三位の教育費がトップにかわり、庁舎改築に備え、伊方駐在所移転費、あるいは財調積立金などで、前年四位の総務費が二位に六位であった公債費が四位にかわったほかは、前年度とおおむね同じ順序となっています。

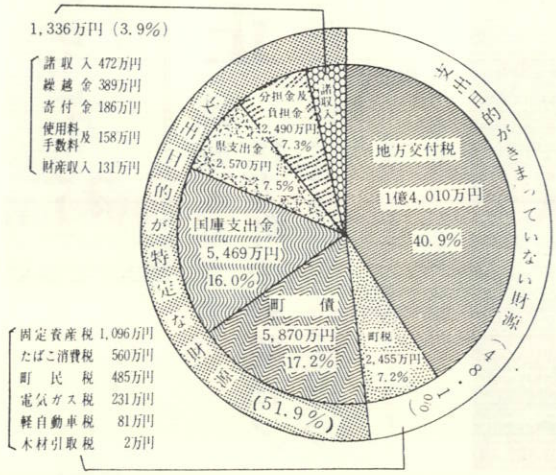
この使ったお金を性質別に分析してみますと、普通建設事業費一億三、六九二円（四〇・五%）に災害復旧事業費一、六六九万円、失業対策事業費七五五万円を加えたいわゆる投資的経費の総額は一億六、一一六万円で使ったお金の四七・六%をしめています。

また、消費的経費の大きなウエイトを示める人件費においては、七、三六二万円で前年の六、一四五万円にくらべ一、二一七万円増加しています。

最後に使ったお金三億三、八二六万円が、本町の一世帯、一人当りどのくらい使ったことになるかというと一世帯当り一三八、一七八円、町民一人当り三五、一〇〇円使った勘定になります。

入ったお金の構成

3億4,200万円



使ったお金

3億3,826万円

◉町民一人当たり　35,100円
（44.11.1現在の人口で計算）

教育費

7,869万円(23.3%)
◉ 8,165円

商工費

81万円(0.2%)
◉ 84円

衛生費

951万円(2.8%)
◉ 987円

議会費

571万円(1.7%)
◉ 592円

災害復旧費

1,669万円(4.9%)
◉ 1,732円

土木費

4,377万円(13.0%)
◉ 4,542円

労働費

1,134万円(3.4%)
◉ 1,177円

総務費

5,223万円(15.4%)
◉ 5,420円

公債費

3,418万円(10.1%)
◉ 3,547円

消防費

310万円(0.9%)
◉ 322円

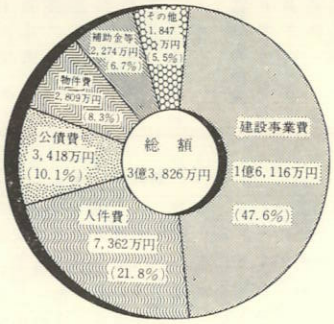
農林水産業費

5,205万円(15.4%)
◉ 5,401円

民生費

3,018万円(8.9%)
◉ 3,131円

性質的にみた使ったお金



井桜教育長が

全国社会教育功労表彰

本町の教育長である井桜政勇氏が財団法人全国社会教育協会より昭和四十四年度社会教育功労者として表彰されました。

井桜教育長は、昭和十七年三月から二十三年三月までの間、西宇和郡内の公立学校長兼青年学校長の職で義務教育終了後における青年教育に尽力。

昭和二十五年一月から三十一年四月までの六年三カ月の間、西宇和郡教育事務所に勤務し社会教育主事として、郡内の社会教育に貢献し数々の業績を残した。

○ 西宇和郡映画教育協会を創設し、郡内の学校教育、社会教育に映画フイルム利用による巡廻学習を展開。

○ 西宇和郡社会教育協議会を設立し、社会教育活動を有機的なものにした。

昭和三十六年十月から三十八年九月三十日まで、伊方町社会教育委員として活躍。

昭和三十八年十月から伊方町教育長に就任し、現在まで二期目でこの間、社会教育の推進に尽力した。

○ 町立公民館への公民館主事配置。

○ 部落立公民館への公民館主事配置。

○ 青少年の健全育成。

○ 生活運動の推進。

○ 社会道徳の高揚。

○ 家庭教育の振興。

○ 社会体育の振興。

○ 文化財保護。

○ 伊方町誌の刊行。

以上、こうした社会教育畑の功績に対して表彰の栄に輝いたものです。

祝・祭日には

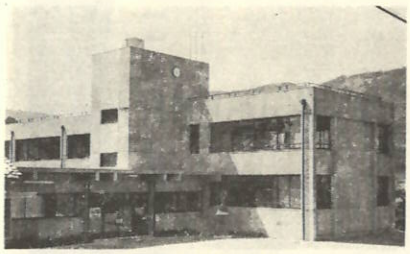
国旗をかかげましょう

国旗は、国を象徴する旗です。純潔と平和をあらわす白地に、万物の生長の根源である太陽をかたどった赤い丸を配した、わが国の国旗「日の丸」は、日本民族の象徴として敬愛されています。

町内のみなさん、祝・祭日には全家庭が国旗をかかげましょう。

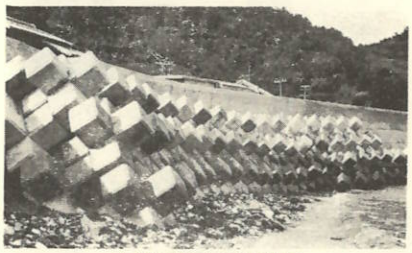
昭和43年度 主要施策の方向と成果

目で見た主な事業内容

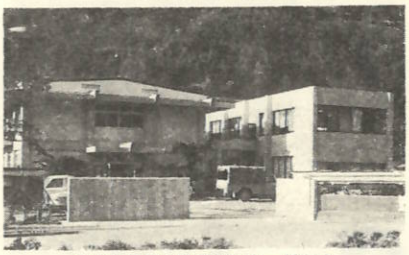


二見小学校校舎新築
事業費 2,640万円

九町小学校屋内体育館改築
事業費 916万円



大成海岸保全事業が竣工
事業費 990万円



中央公民館・農事センターが完成
事業費中央公民館1,167万円 農事センター630万円

◎総務企画部門
辺地性の除去が先決

(議会費、総務費、消防費、公債費の四款からなります)

町経済の発展に伴って、個人所得も一般的に増加し、町民の生活水準の向上もまた、著しいものがありますが、町全体がへき地の中住民の生活環境の整備向上における福祉国家としての恩恵を受けることにありますならば、へき地において一部地域住民には、この目ざましい経済成長発展にも恩恵を受けることなく、依然としてへき地の生活をしられている地域住民があることを忘れてはなりません。

町行政および町経済発展の究極の目的が全町民がしく文化国家であることにあります。

現在、有寿来へのバス乗り入れは茅の岬まで運行しており、昨年の辺地対策事業により、伊方越部落まで道路改良が行なわれ、四十三年度は一、〇三二万円をもって亀浦、伊方越線の道路改良を行ない、長年の夢であった両部落までのバス運行は、これをまつばかりとなりました。

こんごは、大成、鳥津も含め瀬戸内側各集落へ、営業バスの乗り入れが一日も早く実現できるよう強力に働きかけていく必要があります。

住民の生命財産をまもる消防力の増強については、町内二十一全分団に消防動力ポンプの設置が実現していますが、今年度の事業として有寿来小学校の防火水槽、豊之浦小学校と保育所への消火栓の取り付けを行ないました。

こんごも水利施設の整備、消火栓の取り付けなど次整備を進め初期消火の実をあげる必要があります。

速やかに行なう必要があります。

辺地格差の是正のためには、各般にわたる諸施策が必要なことは申すまでもありませんが、集落への交通機関の乗り入れを実現させることがその辺地性を除去するために最も効果的、肝要なことであります。

行政事務能率の向上を図り、住民サービスの向上を図るには、まず第一の条件として、適正なる事務環境が要請されます。

旧庁舎は、狭く、老朽を極め、事務能率とか住民サービス向上とかの議論以前のものでした。

長い期間、財政再建の道を歩みのびのびとなっていた庁舎改築は近傍団体の多数が、町村会併後庁舎改築を行なっている実情も見きわめ本町自体が財調積立金も一、九三〇万円と二、〇〇〇万円に接近した額となり、四十三年度の財政事情も安定していることから新町発足以来の懸案であった庁舎改築に踏み切ったものであります。

四十三年度では、警察官駐在所など予定敷地内建物の撤去および設計を終り、四十四年度庁舎改築完成の運びとなったのであります。

◎民生、衛生部門
生活環境整備と児童福祉に重点

(民生費、衛生費、労働費の三款です)

区を除く地域のほぼ完全措置ができることとなった現在、有寿来地区については、しばらく部落単独最近の経済成長の発展に伴いました。

これにこたえ町としては、四十三年度は季節保育所を有寿来地区に重点、開設する方策を試みましたが、こんで、伊方越、亀浦部落への乗り入れの実現復式授業解消のための有寿来小学校の統合のこされた階層の是非、こういった問題を見合いの上、積極的方策を講じなければなりません。

また、大浜保育所については、児童の完全保育と町財政の負担軽減と両面の見地から早急に認可保育所へ昇格するよう努力する必要の積極的な推進があります。

児童福祉のもう一本の柱として推進しております、「子どもの遊び場づくり」は、四十三年度は中之浜に整備し完備したもの十カ所、簡易なもの六ケ所、計十六所となり、二十五全部落設置、と進んでおります。

◎農林、水産部門
ハイピッチで進む農道整備

(農林水産事業費、商工費の二款のみです)

町内産業特に農業の振興を図り町民所得を向上し、住みつく町を実現するためには「農業経営の近代化」を図り、所得の向上はもちろん重労働からの解放と労力の節減を行ない価格の安全を堅持することが先決です。

そこで、農業経営の近代化の基礎的条件である農道整備など農業生産基盤の整備を逐次施行促進しました。

昭和四十三年度においては、農林水産業費から支出しました大浜地区新興、朝日両農道整備費一、七七八万円のほか土木費から支出した、河内河北線、二見大松線、伊方越大森線など部落営町道新設補助金一〇〇万円、前年度の繰越明許費で四十三年に決算された労働費の救農土木費三七七万円、これらも実質効用は農道整備でありますから合算しますと、二、二五五万円を投下しています。

また、四十二年度は、未曽有の大干ばつにあい、農家の悲壮な努力もむしろ果樹をはじめとして農産物に大きな被害を受けましたが、それに加え四十三年度は、価格の暴落と二年続けて農家は非常に苦しい状態においこまれています。

これらの対策として恒久的な水利開発と品質の向上、価格の安定を図るとともに、夏柑の改植を推進して行かなくてはいけません。

海上交通に多くの比重を持っている九町地区漁港の接岸施設は、町政的理由から四十三～四十四年の二年継続で実施いたしました。この事業によって、以前のはしけ利用が無くなり、九町港は、一段と便利にはりましたが、引き続き田之浦漁港、加周の接岸施設が整備される予定です。

◎土木建築部門
芽を出した生活圏道路の舗装

(土木費、災害復旧費の二款からなっています)

生活環境の整備向上のため、生活圏道路が舗装されることが重要な一項目であることは申すまでもありません。

町内国道の全線舗装が実現し、部落内道路の大半が舗装されたいま、急がれるのは、集落と国道あるいは集落間道路の舗装であります。

これらを完全に行なうには、多大の投資が必要とされ、短い年月では無理だとも考えられます。

しかしながら、目標達成のため遂年実施して行く予定で、四十三年度は、河内～湊浦間を第一歩として、学校給食センター前までを実施しました。

また、このほか民生費の同和対策事業で、向部落と国道の間に舗装も実現しました。

こんごは、河内～湊浦間および古屋敷～加周間の全線舗装を当面の目標として推進いたします。

◎教育文化部門
有能な人材の育成

(教育費の一款のみです)

国家社会の要請にこたえる有能な人材の育成と人間能力開発、これに合わせて本位の向上、すなわち人づくりは、教育の根幹ありこの振興こそ本町開発の基礎であります。

しかしながら、有能な青年はどしどし県外へ流出し莫大な教育投資は大都市や大企業へ流出する知的労働者の供給にささげられ中央の地方に対する人材面の収だつのきびしさが著しいのが現実であります。

とにもかくにも学校教育、社会教育などの一連の人づくりにより本町が教育と文化の香り高い「住みたくなる町」でありたいと考えます。

四十三年度は、二見小学校危険校舎改築と九町小学校危険屋内体育館改築の大きな事業を行ない、教育施設の整備を行ないました。

また、社会教育については、社会教育法制定以来の懸案であった中央公民館の新設、またこれに併設して農事センター、子どもの広場、明治百年記念公園など本町社会教育のメッカを造成したのであります。

こんごは、ここを拠点として、巾広い人づくり運動を推進して行きます。

また、保健体育の分野については、四十三年三月より実施いたしました全校完全給食も軌道にのり順調に運営がなされています。

こんごは、水泳プール、町民グランドなどの新設と健康管理に重点をおき、青少年スポーツ振興と体位、体力の向上をめざしています。

文化の香り高い「住みたくなる町」となり、町民経済の安全と伸展により「住みつく町」となって町外で働く人々が、「帰って来たくなる町」に作り上げるには、より高度な、より強力な、より徹底した諸施策が必要であります。

この町づくりには、国、県の地域開発の諸施策が強力に推進めなければならないことは論をまたず、これにこたえる町自体の的確な企画と行政能力が必要とされ、強大な財政力の裏付を要するものです。

連年の町債の発行により、硬直化を増している本町の財政状況をみるとき現状はなれの目標のそしりも甘受せざるを得ないかとも考えられます。

しかしながら、近年の伊方町をとりまく諸情勢は

① 三崎・佐賀関間の国道フェリーが四十四年四月に運行を開始

② 八幡浜・大洲間国道夜昼トンネルが十一月に貫通。

③ さらに、伊方町内における国道の本格改良が四十五年度から着工見込みと報道。

④ 高知・九州連絡道として、大洲・須崎間に新たに一九七号線が延長昇格。

⑤ さきには、四国ハイウェー高松・大洲間が高松から着工。

⑥ 四国新幹線が九・四海底トンネルとともに、その構想が発表される。

などめまぐるしい流通ルート整備の息吹きをみせており、本町への原子力発電所の誘致が成功すれば、まさに、九・四連絡の要衝として、また西瀬戸内海経済圏流動環の重要な一つの点としてアピールされてくるものと考えられます。

八幡浜市・大洲市を主核都市として、地方生活圏が整備され、その広域圏の中でホームゾーンとしての伊方町を築きあげる町づくりを積極的に推進して行かなくてはいけません。

◎結論
調和のとれた町づくりをめざして

住民の消費文化生活に対する欲求は日増しに高まり教育水準も上昇してまいりました。

そうして学業を終えた彼ら青年の多様化、高度化への要求にとたえきれないのが郷土伊方町の姿であることは残念ながら現実です。

伊方町が町民のくらしに調和のとれた「住みよい町」となり教育

成人式は簡素な服装で

ことしの成人者一〇〇人

成人式をむかえたみなさん、おめでとうございます。

一月十五日は成人の日です。

町では、ことし成人をむかえた新成人に「大人の仲間入り」を祝福して、十五日に伊方小学校講堂で成人式が挙行されます。

この近年、年を追うごとに成人者の服装が派手になり問題となっています。

昨年は、部落区長、部落公民館主事、青年団、婦人会が中心となって、とかく晴着で着飾った姿があふれ、晴着の見せ合い傾向になるほか、和服のショー的な傾向を防ごうと晴着姿の陳列を申合わせた結果、全成人者が洋服姿で出席し関係者を喜ばせました。

そこで町教育委員会では、ことしも昨年同様、晴着姿を全廃し、成人者のみなさんに簡素な服装で出席されることを強くのぞんでいます。

成人者全員が、はなやかな飾り立てはやめるよう成人となった日から実行力を身につけましょう。

つぎに成人者名簿を掲載しましたが、この名簿は昭和四十四年十二月一日現在の住民基本台帳から該当者（昭和二十五年一月一日から十二月三十一日までの間に出生した人）を調査したもので、その結果、ことしは一〇〇人（男四十二人、女五十八人）該当者がありました。

このほかに該当する人で名簿もれの人、また、町外より帰郷され本町の成人式に出席を予定されている人は、町教育委員会まで早目に申必ずください。

大浜
（男三人　女五人　計八人）
谷口長生、吉谷友一、黒田泰博
門田明美、木戸やす代、明神貴久江、袋口英美、波戸高江

中之浜
（男一人　女四人　計五人）
山野洋一郎、浜中栄、竹中美知子、石崎モトミ、門田あげみ

豊之浦
（男三人　女二人　計五人）
福島光矢、井上徳広、福島峰明
竹内加代、福島志保子

仁田之浜
（男三人　女七人　計十人）
米沢長文、畑中初男、山本文雄
菊池加代子、田中敬子、田中トメ子、亀井タツ子、藤井恵子、畑中久栄、兵頭寿子

河内
（男四人　女三人　計七人）
安部民生、山口金明、藤堂鴻夫
松田佐敏、藤堂加代、東川幹、福井あや子

湊浦
（男七人　女十人　計十七人）
山本純三、長沢英邦、堀田正道
吉本秀正、三好健治、佐々木幸治、川口清二郎、松岡妙子、中田いつみ、佐々木さと子、二宮はるる子、広瀬のり子、武田光子
菊池はるる、三川育生、明神富紀、岡山幸子

湊浦二
（男一人　計一人）
登口修

小中浦
（男一人　女二人　計三人）
吉本哲、山本まさ、矢野悦子

中浦
（男二人　女二人　計三人）
井上依孝、竹内柳一郎、三浦田紀

川永田
（男四人　女五人　計九人）
松沢武光、大星敏人、松田武、加藤安邑、堀田喜美、阿部むらえ、篠原千代、竹内敬子、阿部一子

川永田二
（男一人　計一人）
矢野義雄

奥
（女二人　計二人）
大沢修子、池田妙子

向
（男三人　女二人　計五人）
堀内和一、下垣武利、山下康好
樹本壮四、袁下鈴子

畑
（男一人　女二人　計三人）
西内則計、辻下良恵、谷村峰子

須賀
（男一人　女一人　計二人）
菊池清太、米沢加須代、

久保
（男一人　女一人　計二人）
菊池博史、久保タツミ

西
（男二人　女二人　計四人）
菊池孝平、奥田又城、阪戸良美
松田トシミ

二見
（女一人　計一人）
川口千代子

田之浦
（男一人　女二人　計三人）
重岡英治、西山勝子、浜本金子

古屋敷
（男一人　女二人　計三人）
細川斉、井桜福美、高橋百合子

大成
（女二人　計二人）
久保多美子、高田登美子

鳥津
（男一人　女一人　計二人）
鳥津俊治、山田ウサ子

伊方保育所へ〝みこし〟

湊浦の樋本初芳さん寄贈

湊浦の樋本初芳さんが伊方保育所へ〝みこし〟を寄贈されました。

このみこしは、重さ約三十キロ、高さ八十センチメートル、担い棒の長さ二・四メートルの園児たちが、かつぐに手ごろな重さ、型に考えてつくられており、十万円もするたいへん豪華なものです。

寄贈された樋本さんは「以前に伊方保育園児のみなさんが紙製のみこしをかついで、うれしそうな姿を拝見しました。

また、秋祭りが近づくと新聞などで、ネジリハチマキ姿で元気にみこしをかついでいる子供たちの姿をみて、そこで是非永久保存的なみこしをと、思いたって寄贈したわけです。

園児のみなさんに、よろこんでもらえれば、しあわせです」と謙虚に語っておられます。

伊方保育所ではこのみこしを園児たちのアイドルとして大切に保管し、感謝の気持を持って、これから毎年の秋祭りには、可愛い伊方保育所の園児たちに、かつがれ、晴姿をみせることでしょう。

寄贈された〝みこし〟をかつぎ大喜びの伊方保育園児

大黒さん（大浜）が二種目全国優勝

全国身障者スポーツ大会

大浜の大黒操さんが十一月八、九日の二日間、長崎県諫早市で県太子駅ドをお迎えして行なわれました全国身体障害者スポーツ大会に於て、二種目に優勝し金メダル二個を獲得しました。

この大会は、全国から身体障害者が一同に集い、競技を行なったもので大黒さんは六十メートル競走、ヤリ投げの両種目に県代表として出場し、全国の精鋭と競い見事に優勝の栄冠に輝いたものです。

大黒さんは優勝の感激を一県代表として立派に競技を行ないたいと思って、無心に競技を行ないました。

二種目も優勝でき、夢のようです。

大黒さんは優勝の感激を一県代表として立派に競技を行ないたいと思って、無心に競技を行ないました。

二種目も優勝でき、夢のようです。

県大会で金・銀各二個

また、愛媛県身体障害者スポーツ大会も十一月二日松山市堀之内陸上競技場で行なわれました。

この県大会も年令別、障害別に行なわれ、毎年本町から数多くの優勝者を出していますが、本大会で好成績をあげられた方々は、つぎのとおりです。ここに栄光をたたえたいと思います。

◎優勝（金メタル）
六十メートル競走　大黒　操（大浜）
砲丸投　西井喜久雄（須賀）

◎二位（銀メタル）
走市跳　山本　勝男（大浜）
岩井　正（二見）
敬称略

また、二種目の全国優勝に輝いた大黒操さんは、十二月十三日県知事より表彰されました。

駐在所だより

あなたのお子さんにご心配は？

昨年一年間（昭和四十三年一月～十二月）に全国で約八十件もの凶悪、残忍な幼少女に対する誘かい事件が発生しています。

保護者はもちろんのこと、みんなが注意し合って誘かい事件を防ぎましょう。

◎保護者の方へ

一、つねに子供の保護を怠らないこと。

二、学校、保育所を休ませる時、早退させる時は連絡をとること。

三、子どもだけ家庭におき外出しないこと。

四、子どもが誘かいされた長いのある場合はもちろん、迷子、家出など、ゆくえがわからなくなった場合は、ちゅうちょせずにすぐ警察へ知らせること。

◎子どもへの注意事項

一、知らない人から誘いかけられても絶対について行かないこと。

二、知らない人につきまとわれたりした時は、警察（一一〇番）に知らせるか通行人に知らせること。

三、知らない人から道を聞かれた時は、その場で必要なことを教えること。

四、外出する時は、行き先、帰宅時間などを保護者に告げておきそれを必ず守ること。

＝お礼＝

兵庫県尼崎市三反田字ヒヨ五一八の六にお住いの山下恵敬氏（大浜出身）より二千円。広報編集の費用にとご寄付いただきました。

紙上より厚くお礼申し上げますとともに、ご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

人

昭和44年11月末現在
世帯数　2,446戸

人口　9,636人（男 4,599人　女 5,037人）

婚姻

昭和44年11月1日～11月30日

氏名	年令	本籍地

出生

昭和44年11月1日～11月30日

死亡

昭和44年11月1日～11月30日

編集後記

「ゆく年くる年」は恒例のテレビ番組ですが、つい何時間かまえ、家族そろってたのしく見ていたのに……。あれは去年のことです。

きょうはもうことし。時の移りのがこんなに早く感じるのはどういうわけでしょうか。元日になって、いま過ぎ去ったばかりの前年をかえりみて、初昔とも感じます。

ちょっとそらぞらしい感じですが、元日は子どもばかりでなく、何どなくたのしいものです。

「一年の計は元旦にあり」といわれますが、新しい年を迎えて、新しい生活計画をたて、新しい希望の出発点としたいものです。

新年号をここにおとどけします。新年号は四面とし、昭和四十三年度の決算状況と、主要施策の方向と成果を大きくクローズアップしました。

一般会計では三年連続黒字決算をみることができ、健全な財政運営が軌道になされています。このことは町民のみなさんが町政に対するあたたかいご理解とご協力のたまものです。

一月十五日は「成人の日」ことしの新成人は一〇〇人いよいよ晴れて大人の仲間入りです。新成人に心よりお祝い申し上げ、前途にますます幸多かれと祈ります。

（Y・O）